

徳島赤十字病院臨床研修プログラム：外科

コース責任者：湯浅 康弘

研修期間：必修科（外科）として１２週間のうち８週間
選択必修科（外科）として１２週間のうち４週間
選択科として４週間から

I：一般目標（GIO：General Instructional Objective）

医師として望ましい姿勢・態度と基本的な診療能力を身に付け、外科疾患に関する基本的な知識と技術を身に付け、術前後の基本的な全身管理を習得することができる。

II：行動目標（SBOs：Specific Behavioral objectives）

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

- 1) 外科疾患患者の医療面接・身体診察を正確に行うことができる。
- 2) 回診は指導医または上級医とともにいき、全身を系統的に診察し詳細な腹部所見を挙げるとともに正確に診療録へ記載することができる。
- 3) 頻度の高い病態、疾患に関しエビデンスに基づいた標準的な診療方法を理解し、実施することができる。
- 4) 多くの予定・緊急手術の症例を経験し、術前術後管理を行うことができる。
- 5) 術前説明による同意について、指導医または上級医に同席して取得方法について学ぶことができる。
- 6) 助手として手術に入り外科基本手技と清潔操作を行うことができる。
- 7) 看護部、メディカルスタッフ、他科と良好な関係を保ち、チーム医療を実践することができる。
- 8) 医療安全について理解することができる。
- 9) 医の倫理及び社会性について理解することができる。

②主な基本的な臨床検査

- 1) 外科の診療に必要な検体検査、画像検査、病理組織検査の結果を理解し判断することができる。
- 2) 外科系関連の検査適応や特性を理解し、基本的な臨床検査を行い判断することができる。
（血液検査、心電図、超音波検査、透視検査 など）
- 3) 画像検査の内容を理解し、適応について説明できる。
（単純X線、造影X線、CT など）

③主な基本的手技

- 1) 外科の基本的な手技を理解し、実施することができる。
(簡単な切開・排膿、縫合、ドレナージ、CV カテーテル挿入 など)
- 2) 採血法 (静脈血・動脈血) を実施することができる。
- 3) 注射法 (皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保) を実施することができる。
- 4) ドレーンやチューブの管理を適切に行うことができる。
- 5) 経鼻胃管挿入ならびに管理を適切に行うことができる。
- 6) 術後の創傷処置・創部消毒を実施することができる。
- 7) 局所麻酔について理解し、適切に実施することができる。
- 8) 軽度の外傷や熱傷への処置を行うことができる。
- 9) 圧迫止血法・簡単な結紮止血法を実施することができる。
- 10) 周術期の体液管理 (輸液) について、十分な知識を持ち、正確に実施することができる。

C. 主な症状・病態の経験

腹痛、胸痛、発熱、食欲不振、嘔気嘔吐、便秘異常、急性腹症、急性消化管出血、外傷 (腹部などの開放外傷、鈍的外傷)、食道・胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患、胆嚢・胆管疾患、肝疾患、膵臓疾患、ヘルニアなど

Ⅲ：学習方法 (LS : Learning Strategy)

1) LS (方略) 1 : On-the-job training

■主な病棟業務

- ・主治医を含む指導医または上級医の指導のもと、OJT を中心とした診療に参加する。指導医または上級医とともに診断及び治療にあたり、診療録に記載する。
- ・手術摘出標本を規則に従って、リンパ節を分類し病理に提出する。
- ・担当患者の一般撮影、エコー図、CT、MRI の手技及び読影方法を学ぶ。
- ・患者および家族と病状説明等を通じて、良好なコミュニケーションを取れるようにする。
- ・看護師、薬剤師、管理栄養士、事務などと協力し、チーム医療を実践する。

■主な外来業務

- ・外科外来にて初診患者の医療面接と診療記載を行い、指導医または上級医のもと外来業務のシステムや手順を学ぶ。
- ・定期的に夜間・休日業務に参加し、指導医または上級医とともに外科系 ER 患者への初期対応を行う。救急車搬送患者には、救急担当当番医と協力して心肺蘇生を含む救急処置に参加する。

2) LS (方略) 2 : カンファレンス・勉強会

- ・手術前後カンファ：毎週月曜日、木曜日の 8 時から、7 階南病棟カンファレンス室で行う。
- ・消化器外科術後カンファ (病理)：毎週金曜日の 8 時から、7 階南病棟カンファレンス室

で行う。

3) LS (方略) 3: 学会・研究会・学術活動

- ・学術講演会や各種の院内研修（医療安全や感染対策など）に積極的に参加する。
- ・外科疾患に対する講演会や研修会に積極的に参加して知識を深めるとともに、学会発表や症例報告論文を作成する能力を身に付ける。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	<u>8:00～8:30</u> <u>手術前後カン</u> <u>ファレンス</u> 手術	手術	外来	<u>8:00～8:30</u> <u>手術前後カン</u> <u>ファレンス</u> 手術	<u>8:00～8:30</u> <u>消化器外科術</u> <u>後カンファレ</u> <u>ンス（病理）</u> 手術
午後	手術	手術	外来	手術	手術

IV：学習評価（EV：Evaluation）

PG－EPOC による総合評価

- 1) 個々の診療記録と退院要約（サマリー）は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。
※退院要約（サマリー）は、1 週間以内に記載すること。
- 2) ローテイト研修終了時に、PG－EPOC に診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 3) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による 360 度評価を行う。